



「車いす」

大川嗣雄・伊藤利之・田中 理・飯島 浩 著

街の中で車いすに乗っている障害者と出逢わない日が無いほど、日常生活になくはならないものになってきている。これだけ利用されている車いすにして、それを表題とする本が出版されていなかったのが不思議である。

著者らが序文の中で述べているように障害者を含めたあらゆる方面の方々が利用することのできたいへん貴重な、重宝な本である。我々 PT にとっても特に6章と7章とは病院、施設だけでなく地域医療の活動の場においても十分利用価値のある非常に興味のもてる部分である。

本の構成を紹介すると、1章は車いすの日本における歴史を、2章は種類、各種ごとの説明文とそれぞれの価格が表示してあるので便利である。3章 基本構造、4章 処方と処方に当たった基本寸法、処方箋例、障害別選択などにふれている。5章 基礎訓練と介助方法では図解や写真が多く医療専門家以外の方々にも理解しやすく、すぐ現場で応用できるようになっている。6章 電動車いすと自動車、障害者用自動車改造時の基

本的な考えかたや、その具体例による指導ができる。

7章 環境、車いす駆動時に伴う必要面積の算出方法、作業空間、横浜市の福祉のまちづくりを通して、使用者の行動特性が記されており、今後新しくまちづくりを推進しようとしている所ではおおいに参考になる。

8章 科学、走行、駆動特性や駆動と筋肉活動パターンを障害レベル別に図表化しているため、今後この方面の研究を深める者に示唆を与えるものと思われる。座圧パターンと褥創との関係、特製座席形成についても紹介されている。9章は資料で、知っておくと便利な車いすに関するもので、使用者に PT として一度は説明しなければならない項ではないだろうか。

全体を通して感じることは、毎日車いすと何らかの形で関わりのある先生方が実践を通して書き上げられた本だなあ……ということで、それがわかる本である。ぜひ御一読をお勧めします。

(B 5 横判, 158 ページ, 図 89, 写真 185, 定価 3,700 円,
送料 300 円, 1987 年, 医学書院 刊)

(北村山公立病院 理学療法士 駒沢 治夫)